# ジャーナリズム史

## アメリカのジャーナリズム(3)
## イエロージャーナリズムから20世紀へ

1．植民地新聞
2．政治（政党）新聞からペニープレス時代へ
3．南北戦争前後の新聞
4．イエロー・ジャーナリズムの始まり
5．J．ピューリッツアーとW．R．ハースト
6．20世紀の新聞
7．通信社の出現
8．世界大戦と新聞

# アメリカのメディア王

- Henry R.Luce(1898-1967) 米 Time
- Edward W. Scripps (1854-1920) UPI
- Bill Gates: Micrsoft
- Steven Case

# William Randolf Hearst

- 1863　カリフォルニア生まれ
- 1887　24歳のとき、父の経営するSan Francisco Examinerを引き継ぐ
- 「読者が新聞を開いたとたんに“たまげた”と驚きの声をあげるような紙面をつくる」
- Examiner　1887年＝1.5 万部　1年内で2倍の3万部　1893年＝7.2 万部
- NY進出：経営不振のMorning Journal を18万ドルで買収

# W. R. Hearst (1863-1951)

- 米 Examiner, NY Morning Journal
- yellow journalism
- Please Remain. Your Furnish the Picture and I'll Furnish the war.(1898)

# Yellow journalism (1)

- 『ワールド』からRichard F.Outcault「ホーガン路地裏」をそのまま引き抜く→“イエローキッド（yellow Kid）”黄色い上っ張りを着たやんちゃ坊主
- センセーショナルな紙面作り、“えげつない”新聞合戦を始めた
- →“イエロー・ジャーナリズム”

# Yellow Jorunalism(2)

- **米西戦争** (1898) **ー「戦争は私がつくる」**

  You furnish the pictures and I'll furnish the war.

  **米国内の同情高まる→マッキンレー大統領を中傷する記事をスッパ抜く　→反スペイン感情を高める→メイン号**
- 1898**年2月　メイン号爆発事件　「これは戦争なんだから」　原因は不明**
- **ワールドは**500 **万部、ジャーナルは**100 **万部売れた　※イエロージャーナリズムの煽り**

# Joseph Pulitzer:1841-1911

- 1847.4.10 **ハンガリー生まれ** 1864:**移民**
- 1865 **セントルイスの独語新聞の記者に**
- 1878 **破産した** St.Louis Despatch **を買収 たった**2,500 ドル

**たった**2,500 ドル

NY World **を買収**

Jsm **メディア買収**

# A.Ochs: NY Times

- 1896年 Adolph Ochs (1858～　)
- **センセーショナリズムと全く逆の方向を目指す**
- **「恐れることなく、しかもおもねることなく、公平な立場でニュースを報道する」**
- to give the news impartially, without fear or favor

# 1870年と1900年の比較

(1) 新聞紙数は376 紙から2,326 紙へと6倍増

(2) 発行部酢は350 万から1,500 万部と4倍増

(3) 広告収入は1,600 万ドルから9,500 万ドルと6倍増

①夕刊紙の激増　②日曜紙の進出

# ２０世紀の新聞

- 20世紀初頭　2,226 紙→1916年2,600 紙 (これがピーク)
- [増加の背景]
- 通信社、特信サービス･シンジケートの発達
- チェーン所有の発展